

どんな人も楽しく下川で暮らせたなら。

「山びこ学園」支援員 森笠明子さん

下川でのリアルな暮らしぶりを町内の方にお話ししていただくコーナー。
今月は、30年以上「やまびこ学園」で働く下川町出身の支援員・森笠明子さんです。

平成2年から障がい者支援施設「山びこ学園」で支援員をしています。障がいを持つ人たちの仕事の経験や知識はありませんでしたが、抵抗はなかったです。学生時代に養護教諭になるための教育実習で、ずっと保健室に通っている障がいがある男の子と出会いました。一緒にいると障がいの有無は関係ないのだなと感じたんです。「山びこ学園」で働き始めた頃、初代園長に「この仕事は根比べ」と教わりました。利用者さんはゆっくり成長し、変化していきます。自分らしく過ごす利用者さんと向き合う中で、そのまっすぐな生き様に感動し、



羨ましいと思うことも多いです。支援員とはいいつつ、こちらが支えられて30年過ごしてきました。

ただ、新型コロナウイルスが蔓延した時期は大変で、気分も落ち込んでしまいましたね。だから制限が少しずつ解除される中で施設の外に目が向いて、地域の方々とこのコラボレーションが増えていきました。2021年から戸田建設(株)さんが一の橋地区でいちごの栽培を始めたのをきっかけに声をかけてもらい、今では毎日3人の利用者さんが農園で働いています。一の橋のバイオビレッジで「ちいきしよつぷ」も始めました。目玉はいちごの詰め放題です(季節限定)。ここでも利用者さんが仕事をしています。

9月5日にはコモレビで「山びこまつり」があります。利用者にとって自己実現や他の人との関わりの中で楽しさを実感できる大切な機会です。地域の方々には施設について、そして利用者の人々がサポートを受けるだけでなく地域で

活躍できる力と、周囲へ優しさや豊かな心を広げる力があることを、少しでも知ってもらえたらという思いで毎年開催しています。ステージ発表や飲食ブースもあり、毎年来てくれるお客さんもいます。今後も一層「山びこ学園」の人たちが地域の人と一緒に過ごしたり、協力したりする環境を定着させていきたい。「山びこまつり」でお待ちしています！

